

令和元年度大型バス安全対策WGの結果について

1. 経緯

軽井沢スキーバス事故対策検討委員会にてとりまとめた「安全・安心な貸切バスの運行を実現するための総合的な対策」のうち、車両のハード面での安全対策については、車両構造の強化や補助席へのシートベルト設置義務化等に加え、警察及び事業用事故調査委員会の調査結果等を踏まえた車両の安全対策のあり方を総合的に検討することとされた。

これを踏まえ、平成29年度に車両安全対策検討会の下に「大型バス安全対策ワーキング」を設置して以降、大型バスを中心とする車両安全対策に関して継続的に議論を行っているところ。

2. 主な議題

- ・ 大型バス車両に関する安全対策
 - 先進安全技術の搭載状況
 - シートベルト（乗員の着座姿勢の違いによる車両減速時の乗員挙動）
- ・ 幼児専用車の安全対策
- ・ バス車両のバリアフリー対策

3. 主な意見

- ・ ASV 搭載状況を車体に表示するとあるが、ユーザは当日に現場に行ってみるまでどのような車両に乗るかわからない。インターネットで搭載状況の表示を確認できると良い。
- ・ 近年、バスの寿命（車齢）が長くなってきており、老朽化によるトラブルが散見される。老朽化による事故の実態についても把握して、実態を示してもらいたい。
- ・ 今の子供はバックル操作への抵抗感が少ない。一方、抵抗感の少なさが災いして、バックルを外す遊び（いたずら）が起きている。今後の幼児専用車には、子供が簡単にベルトを着脱できるが、隣の子供が簡単にバックルを操作できないような位置や形状の工夫が必要であると思う。
- ・ 幼稚園関係者や保護者などにモニター調査結果を見てもらい、意見をいただくことも必要と思う。
- ・ バリアフリーのハード面は進化しているが、現状では乗車時間に5分程度必要としている。車両が進化しても、それを受け入れる人の対応（心のバリアフリー）も迫られる。低速の自動運転とバリアフリーをうまく連携させると受け入れられやすくなると思う。また、ソフト面とハード面の兼ね合いを上手くしていくことが必要である。

4. 今後の方針

- ・ 引き続きワーキングを継続し、対策を考える上での必要な情報提供を行うとともに、課題の整理に加えて効果的な安全対策についての議論が必要。